キャップアートをしよう！

写真準備中

写真準備中

プラスチックごみの有効な利用は循環型社会を構築するうえで、非常に重要なテーマである。2021年6月、プラスチック資源循環促進法が制定され、2022年4月よりプラスチックごみを分別回収するよう各自治体は迫られている。しかし現在呉市においてプラスチックごみは可燃ごみとして焼却処理されている。

また、一般社団法人プラスチック循環利用協会によると、日本のプラスチックごみの6割以上がプラスチックを燃やした熱を利用するサーマル・リサイクルで処理されている。欧米では、サーマル・リサイクルはサーマル・リカバリーと呼ばれ、リサイクルと認められていない。そこで、物質そのものを有効活用するマテリアル・リサイクルやケミカル・リサイクルの割合を上げることが循環型社会の構築のために必要である。

そこで本テーマでは、その手始めとして身近なペットボトルのキャップから分別する習慣をつけてもらうことを目的に、以下の活動を行う。

- 1.MDF（木質繊維を原料とする成型板）や3Dプリンターで作成した部品などを使用して、ペットボトルキャップ回収BOXを制作する。BOXの投入口にRaspberryPi(簡易コンピューター)と超音波センサーを取り付け、遠隔でどれだけのキャップが回収できているのか確認できるようにする。
- 2.集めたキャップは、分別の重要性を啓発するため一部をペットボトルキャップアートに使用する。残ったキャップをNPO法人エコキャップ推進協会に送付しリサイクルしてもらう。
- 3.回収するキャップは年間100kg(約43,000個)以上を目標とする。
- 4.本活動について、また日本のプラスチックごみのリサイクルの現状をポスターにまとめ発表する。